



TEL 〇七六六一五一一五五〇
FAX 〇七六六一六一五五〇〇
E-mail okshoten@poem.ocn.ne.jp

平成十七年三月二十日
〒九三三〇八〇四
高岡市閭屋町四十
有限会社 沖商店発
2015.3.20

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう。』そんなことを皆様と一緒に考えたい。そして皆様の意見を頂きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいます様お願い申し上げます。

一 十年経ちました

『にこにこ通信』を発刊してからも十年経ちました。この通信は一ヶ月に一度発行していますから、二二〇号はちょうど満十年、発刊十年に当たるわけです。

私のもとへ三日と空けずに顔をだす友人が四〜五人います。彼らが「二二〇号が発行できたら『にこにこ通信』祝発刊十周年記念と称し、おまえを招待してやるから皆でいっばいやろう」と言ってくれています。さぞかし楽しい宴会になるだろうと、今から楽しみにしています。

それにしても、我ながらよくも十年間、一部の欠刊もなく発行し続けて来られたものと、驚きとともに感心しています。

なにしろ熱し易く冷め易い性格で、多趣味で何事にも興味を感じるのはいが、そのおかげですべて生簗りで中途半端、おまけに旅行好き、酒好き、遊び好きなので時間もなし、そんな者が毎月二十日に、欠かさず通信を発行し続けて来られたことが、自分でも信じられないのです。

思い返せば、遊び呆けていて、発行前日まで一行も書いてなかったことも一度や二度ではありません。

最も甚だしかった思い出は、何も手を着けてない十九日の夜遅く、酒をたくさん飲んで帰宅し、睡魔と闘いながら徹夜で明朝まで書き上げたことです。

中国出張から十六日帰国し、時間のない中でこの

二二〇号発刊も二十日・二十一日の連休のおかげです。

これはこの『にこにこ通信』発刊に限らず、すべての事柄に関して感じるのですが、私が心から強く望んだ事には『目に見えない力』が協力してくれているという実感がするのです。とても自分だけの力ではできそうにないと思われれる事も終にはできているのです。

この様なことから、私は『目に見えない力』(私はこれを、神・仏・菩薩・天、と称するのだと思っています)の存在を信じずにはおられません。

そしてさらに、私とその『目に見えない力』(神仏)の意思に反した欲望を起ささない様に、私がこの世に生まれて来た使命を十二分に果たせる様に、『目に見えない力』(神仏)に祈願せずにはおられません。

二 この本を読んでください

先日、息子が「お父さん、これ読んでみられ」と一冊の本をくれました。著者 稲盛和夫 『生き方』サンマーク出版

著者の稲盛和夫氏は「京セラ」の創業者であり、第二電電、セルラー電話会社を設立されるなど、会社経営に関し、素晴らしい手腕を発揮され、現在は現役を引退されて仏門に入り、「人生本来の目的」「人間出世の意義」などについて研究されているということ。

読んで行くうちに、あまりにも私の思い・考え方と同一なのびつくりしました。半日かけて一気に読み終えました。

そして、私が言いたくてもできなかった表現方法を教えて頂き、気がつかなかった潜在的意識を想起させて頂きました。それで、稲盛和夫氏著作の本を買い求め、次々に読破しました。

経営の手法とか経理会計のあり方など、全て納得できました。意に合わない点はありませんでした。

私がここで皆様に訴えたいのは、それらは単に各々の手法・手段として説いてあるだけのものと受け取らず、それらの中にある共通したもの、すなわち元本(心のあり方・考え方)はひとつであるということを理解して欲しいということです。

人は「仕事を通じて己(魂)を磨く」のか、「魂が高次元だから正しく仕事ができる」のか、どちらが先か分かりません。が、私は「生まれて来た時よりも、少しでも魂を向上させて死んで行くことが、人

間がこの世に生まれて来た本来の目的」とする稲盛和夫氏の結論に大賛成であり、この考え方の宣伝に大いに力を注いで行きたいと思っています。

以下に稲盛和夫氏著作の本の中で私が推薦するものを記しました。複数冊読んで頂ければ著者が読者に知らせたい真心をご理解頂けると存じます。

どうぞ、次の本を読んでください。

出版社 日本ビジネス人文庫『稲盛和夫の実学』
出版社 P H P 文庫『成功への情熱』
出版社 P H P 文庫『稲盛和夫の哲学』
出版社 P H P 文庫『心を高める、経営を伸ばす』

三 菩薩は周り中におられます

前項での稲盛和夫氏に限らず、経済的成功者の方々が想い起されましたので、私の知る範囲でご紹介申し上げます。

中村天風・正力松太郎・松下幸之助・竹平政太郎 これらの方々は、今はすべて故人ですが、かつては経済界で活躍なされた方々です。

この方々に共通したことは、経済的に成功したこと。自己の利のみを求めなかったこと。少数より多数を重視したこと。ルールを守ったこと。哲学・宗教的思考の下、『目に見えない力』の存在を信じていたこと。普通一般的な人とは次元が異なる思考を持つていたこと。そしてこれらすべてを以って人々を教化したこと。

私は、この方々を大菩薩だと思います(菩薩に大小はありませんが、俗世の人的考え方から、多くの人々を教化し、その影響が大きいので大菩薩といましよう)

片や個人もしくは一時だけでも、他を助け教化する菩薩もいます。その姿は時々により異なります。

親であり、兄弟であり、妻であり、夫であり、友人であり、敵であり、犬であり、猫であり、全然関係のない人であったり、教える信じ、その心で見れば菩薩は周り中におられます。

四 理由なき殺人

十七日(木)午後七時半、NHKテレビ第一放送「クローズアップ現代」で『地下鉄サリン・被害者の十年』と題して、十年前の地下鉄サリン事件を取り上げ、被害者のその後の様子を報道していました。

顧みれば、地下鉄サリン事件は十年前の三月二十日に惹き起こされ、この『にこにこ通信』二二〇号の発行日と同様、満十年になるわけです。

事件当時意識不明の重症だった被害者が、意識は回復したものの、言語はしゃべれない、歩行もできない状態で、夫の世話になりながらの苦しい日常生活の様子が報道されていました。

事件発生後、十年目ということなのか、各種新聞にも数多く取り上げられていました。

犯罪でもお金のためとか、恨みとか、どんな理不尽なものであると理由があればそれなりに納得できるのですが、何のためにやったのか分からないのでは対処の仕様がありません。

被害者は偶然その電車に乗り合わせたのであり、一電車早くても遅くても事故には遭わずに済んだわけ、健康なときの姿がビデオで紹介され、現在の姿と対照して報道されていました。とても気の毒で見えられません。

程度の差は有れ、そんな方が五千人あまりもおられることですが、何とも言いようがありません。

また、あまりにも恵まれていると嫉妬され、それだけで刺殺された娘の両親が、主犯の女性に、本当の心の中を聞くために、損害賠償の訴訟をしてまで面会を求めるといふ事件も報道されていました。

これも、此れといった確固たる理由もなく、単に明るく人に好かれる性格で、人にもてるというだけで同僚の妬みを買って、男性も含めた数人から数時間に亘る集団暴力を受け、刺殺されたわけで、被害者にすれば何とも理不尽な話であります。

さらに、理由のない殺人が多発していますが、「殺す」相手はだれでもよかった」などと言っている犯人の言葉を聞くと、この世の中はどうなっているのかと思います。

仏教では「因果応報」という語句がありますが、現在の結果には必ず原因があるということ。そうなら、このような被害者の方々にはどんな原因があつて、このような結果がもたらされたのか、御釈迦さんに聞いてみたいのです。

それでも、この世に生まれて来た人間には分からないだけで、必ずその原因があると言っているのか。そしてこれも修行の中なのでしょうか

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘

個人メール E-mail 〇七六六一五一一五五〇
〇七六六一六一五五〇〇
okshoten@poem.ocn.ne.jp